

ブルーマウンテンズ市派遣報告書

北摂三田高校 二年 池部 彩花

私は 7 月 25 日から 8 月 8 日までの二週間、三田市の姉妹都市であるブルーマウンテンズ市に親善大使として行きました。ブルーマウンテンズ市では毎日貴重な体験をさせていただきました。

1. ホストファミリー

研修中、私は Larkin さん家族の家で暮らしました。ホストシスターの Mikayla は日本語を勉強していたので毎日、Mikayla は英語を、私は日本語を、という様にお互い母国語を教えあいました。ホストファミリーの方々は本当の家族のように私を温かく迎えてくださいました。毎日、たくさん会話をし、とても楽しい時を過ごしました。



2.学校



私は Winmalee 高校へ通いました。オーストラリアの高校と日本の高校はだいぶんと違っていました。

授業中は、多くの生徒が手を挙げて質問をする様子がよく見られました。生徒は座っているだけでなく積極的な態度で授業に参加し、先生も生徒が理解できるまで説明をしていました。

授業は選択式で、受けた科目を自由に選べるそうです。そのため、朝早くに登校し、夕方に下校する日もあれば、お昼までに帰る日もありました。五教科だけではなく、音楽、フードコーディネイト、家庭科、日本語、コミュニケーションの授業など、一人ひとりの個性を伸ばすことが出来る科目があることも魅力的でした。日本語の授業は、カードを使い、生徒がゲーム感覚で楽しみながら学んでいました。外国の方にとって“を”“に”などの助詞を使い分ける事は難しそうでした。

緊張感ある日本の授業風景も良いですが、誰もが積極的に授業に参加できる雰囲気は、生徒の勉強に対するモチベーションも上がるのでとても魅力的だと思います。

特に私が印象的だったのはリセスの時間があることです。リセスとは、お昼までの間におやつを取る時間のことです。生徒たちは中庭に集まり、りんごやケーキを食べます。授業の合間にこのような休み時間があると集中力が上

がり良いと思いました。

校内を歩いていると “Hello!” とたくさんの人たちに声をかけてもらいました。「こんにちは」と、日本語で挨拶をしてくれた人も少なくありませんでした。Mikayla の友達ともたくさん話ことができました。とてもフレンドリーで優しい人たちばかりでした。

3. 異文化交流

今回の私の派遣の目的は二つあり、一つ目は日本の文化を伝え、オーストラリアの文化を学んでくることでした。

Winmalee 高校でたくさんの生徒の前で、三田市の魅力的な自然環境や茶道についてプレゼンテーションをしました。抹茶の味を知ってほしくて抹茶味のキットカットをあげました。プレゼンテーション後、「日本に行きたくなったよ。」「抹茶とてもおいしかったよ。」と声をかけてもらえて嬉しかったです。

授業の一環でアボリジニの文化を体験しました。いたちの毛皮を触ったり、アボリジニの踊りを踊ったりしました。特に印象的だったのはドットペインティングをしたことです。石のような土の塊を石や木で粉状にし、水を加えて絵の具を作り、その絵の具で顔や木に絵を描きました。筆も枝の繊維を歯で削いで作るそうです。日本ではあまり出来ないような、大変貴重な体験ができました。



またイギリス出身のホストマザーに日本とオーストラリア・イギリスの違いをたくさん教えていただきました。オーストラリアでは若いときに運転免許

証を取得すること、イギリス人は二日に一回しかお風呂に入らないこと、休暇には必ずどこかへ長期間出掛ける事、地方では水が十分でないことなど、知らないことばかりでした。

週末にはオーストラリアで人気のフットボールの試合にも行きました。日本では TV でサッカーや野球が主に放送されていますが、オーストラリアではフットボールやラグビーが放送されていました。夏にはクリケット、冬にはフットボールというように、季節で行われるスポーツが違うことにも驚きました。

また、私は茶道部に所属しているので、ホストファミリーに茶道を体験してもらいました。大豆をすり潰すということが無いらしく、きなこのお菓子にはびっくりしていました。茶道にはお茶を飲むだけでもたくさんの工程があることを知ってもらいました。飲む際に言う言葉やお茶碗をまわす意味を説明し、日本人の他人に対する敬意の表し方や心の美しさを伝えました。抹茶を飲んだことがなかったようで、少し苦そうにしていました。日本文化を英語で伝える事は難しかったですが、茶道を楽しんでくれたようで良かったです。



他にも、日本人には名前に由来があることを教えました。Mikaylaにも漢字を当て字で「美恵楽 (ミケーラ)」とつけてあげました。漢字一文字一文字の意味を伝えると、とても喜んでくれました。

4.観光

今回の海外研修の二つ目の目的は観光について学ぶことでした。ブルーマウンテンズ市は雄大な自然を利用した観光が盛んです。ユーカリ林からユーカリの油が気化することで、空がきれいな群青に見えます。市全体が国立公園となっており、ユネスコの世界遺産にも登録されています。ブルーマウンテンズ市長訪問の際に観光について以下の質問をしました。



Q. 毎年ブルーマウンテンズ市には何人の観光客が訪れるのか？

A. 約 352~400 万人

その中でアジア圏から来る人は約 50%だそうです。

世界各国から観光客が訪れますが、日本や中国、韓国、インド、タイからの観光客が特に多いそうです。

私もブルーマウンテンズ市の観光地をたくさん訪れましたが、アジアの人たちが多くいるなと感じました。

Q.観光客のために何かしていることはありますか？

A.自然を守るために植林をしています。

ほとんどの観光客はブルーマウンテンズ市の自然環境を楽しむために来ます。(例えば自然の中を歩くブッシュウォークや滝)



市では森林警備員という人たちが自然を守っていて、ブルーマウンテンズ市も三田市と同様、森作りの活動をしているそうです。

市全体が国立公園になっており、観光産業にとって重要な自然を守る必要があるのだと考えます。

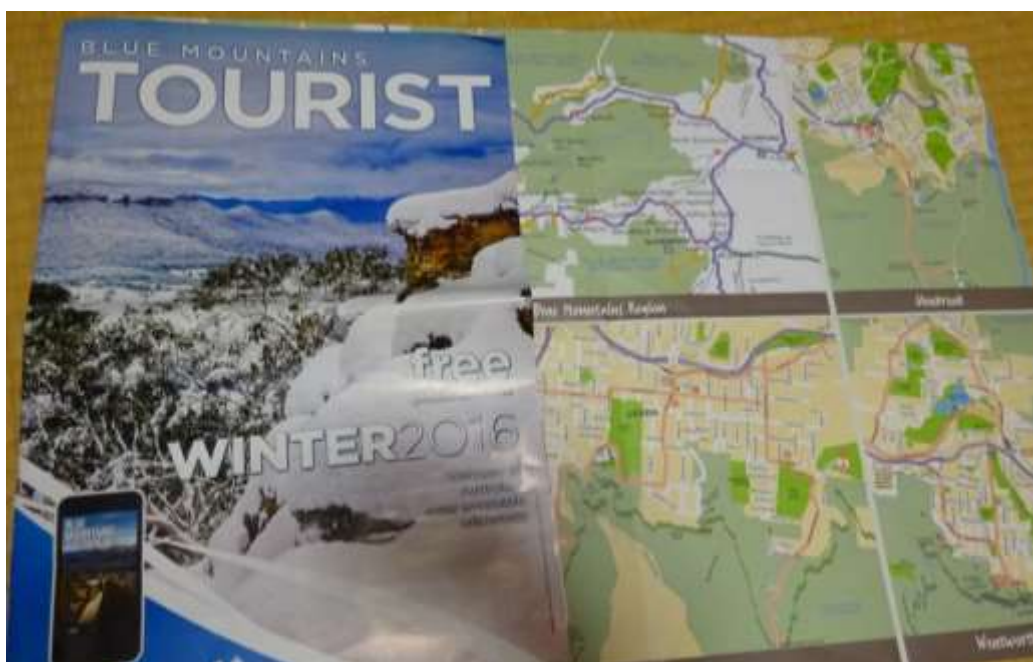
また他にも、マーケット、クロスカントリー、お祭りなどを開催するなどしています。

Q.ブルーマウンテンズ市の最も良い観光スポットはどこですか？

A.最も有名且つ人気のスポットは、“スリーシスターズ”です。

しかし、Katoomba など他にもたくさん、とても魅力的なスポットがあります。

- ◎ これらの回答や、実際観光地を訪れてみて、私は三田にも活かせることがあるのではないかと思います。
- ◎ まず、アジア圏の観光客を増やすのはどうでしょうか。近年日本文化を体験したいという外国人観光客が増えています。実際、オーストラリアでは日本食や抹茶はすごく喜ばれました。私は三田の特産品を活用できると思います。例えば、有馬富士や芝桜園“花のじゅうたん”などの観光地・人が集まりやすい場所周辺に、三田の野菜を使った和食料理店、母子茶を使った和スイーツや抹茶を気軽に楽しめるレストランがもっとあれば、外国人観光客も「来たい」と思うのではないのでしょうか。
- ◎ ブルーマウンテンズ市と同様、三田市は豊かな自然環境に恵まれています。すでに三田市もこれらを利用していますが、あまり広くは知られていません。SNS が普及しているので、三田を PR するツアーやイベントを新たに作り、インターネット上で拡散すれば多くの人を知ることが出来ると思います。また、ブルーマウンテンズ市の店でよく見たのが、観光地を紹介する無料の新聞やパンフレットです。そこには地図やショップ、クーポンが載っており、観光する上で役に立つ記事ばかりでした。



同じように三田市もチラシを店やレストランなどにおいて、人々が三田の観光地について知る機会をより多く作る必要があります。

5.海外研修を終えて

今回の研修は、私にとって初めての海外へ行く機会だったので、行く前はすごく不安でした。しかし、滞在期間中は、同じく親善大使の森鼻咲希さんをはじめ、ホストファミリーやその他たくさんの人々のサポートに助けられながら大変充実した日々を送ることが出来ました。

英語の学習以外にもたくさんのことを学びました。外国の人々と触れ合う事で、異文化理解はもちろんのこと、日本文化の素晴らしさも改めて感じる事が出来ました。

滞在中、英語で自分が言いたいことが表現できなかつたり、相手の言っている意味がわからなかつたりすることが多々ありました。しかし、相手のことを必死に理解しようとする、また相手に自分の意思を伝えようとする意思表示は、例え上手く話せなくても、重要だということがわかりました。同時に、もっと勉強をして自分の英語力を磨き、相手のことをより良く理解出来る様になりたいと思いました。

たった二週間の滞在でしたが、私が得たことはこれからの人生にも役立つだろうと思います。このような貴重で素晴らしい体験をする機会を与えて下さったすべての方、本当にありがとうございました。

